

西っ子だより



伊江村立西小学校
発行者 宮城 康人

NO 2 令和2年5月7日

家庭訪問いよいよ始まる!!

コロナウイルスによる自粛が長く続き子供たちも寂しい日々を送っていると思います。西小学校の先生方も授業研究や子どもたちが楽しめる教材を準備して子供たちの登校を楽しみにしています。早めの学校再開を祈るばかりです。

さて、文書での連絡にあった通り、家庭訪問を5月18日より実施いたします。ただ今回は感染拡大防止の観点から普段の家庭訪問ではなく、16時頃からの玄関先訪問という形でご挨拶にお伺いします。前回は述べましたが、この1年、子どもたちのかけがえのない夢や可能性の実現に向け、「確かな学力」と「豊かな心」、そしてその土台となる「健康な体づくり」のために職員一同、誠心誠意頑張っています。また、子どもたちの教育は、家庭・学校・地域・関係機関との協力、連携により、一層充実するものと考えております。子どもたちの健やかな成長と夢の実現のためには、保護者の皆様と担任が会って話すことが重要と考えています。

コロナウイルスによる状況の中、大変だと思いますがご理解の上ご協力お願いいたします。

前年度は、西小学校の先生方にお伝えした内容ですが、今回は保護者の皆様にも少し読んでいただきたく下記に書かせてもらいます。

「ピグマリオン効果」(ローゼンソール効果、教師期待効果ともいう。)

教師が児童に対して正確ではなくても優れていると評価すると、児童の成績が良い方向へと変化する現象です。ギリシア神話で、恋した大理石の乙女像が願いがかなって命を持ったというピグマリオン王に由来する言葉です。顕著な例として、下記のような事例があります。

米国のハーバード大学の著名な教育学者がごく普通の小学校で数ヶ月に渡って子どもの調査診断活動を行った。その最後に一枚のリストを残した。それには将来学力が伸びるに違いない子どもの名前が書いてあった。一流大学の教育学者から、将来の学力のお墨付きを貰ったのである。しかし、その小学校の先生は首をかしげた。優秀な子もいるがこの子は?という子も沢山いたからである。一年後の学力テストでリストにのっていた子は例外なく全員学力が向上していた。教育学者の調査と研究の深さに驚いたのであった。

ところが驚くのはその先で、そのリストはサイコロをふってあたった子の名前だった。

この子達の学力を向上させたのは、「子どもを見つめる親・教師・周囲の目」「この子は才能ある伸びる子」と信じて期待したそれだけで学力が向上したのである。教育の中でいろいろな形で取り入れられることである。(ピグマリオン効果)。

学校・保護者・地域で子供たちの可能性を信じて頑張っていきましょう!!